

設置場所の選定理由

- イ この海域は海底地形が起伏が小さく、底質が殆んど砂質帯で人工魚礁設置に適する。
- ロ 水深は10 m～27 mで深くもなくカツオ餌料魚の対象魚礁設置に適する。
- ハ 内湾的で、瀬底島の島かげにもなっているので周年穏やかで、潮流も大小時で0.1～0.4ノットで速くなく、操業が容易である。
- ニ 従来から並型魚礁等を設置してきた場所であり、今回の人工魚礁もこれと関連させ、漁場の付加価値が高められる。
- ホ 当該水域にはカツオ漁業用活餌料となるキビナゴ、ミナミキビナゴ、サネラー（タカサゴ類の稚幼魚）等が生息しているので人工魚礁が設置されれば集魚効果が一層増す。又底魚類の漁場ともなる。

(2) 魚礁材質選定とその理由

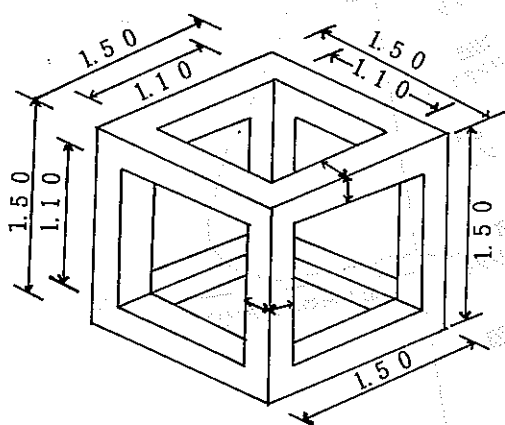
材質決定は、小川技官（東海区水研）の意見をきき、関係者の協議でなされた。コンクリート魚礁（大型）とプラ魚礁（プラスチックとコンクリートの合成）の2種でその割合は4：6にした。

材質選定理由

a コンクリート魚礁

- イ コンクリート魚礁（大型で1.5 m³）が今まで公共事業に使われているものであり、効果が十分認められている。
- ロ 沖縄における並型大型魚礁設置例からみてその効果が期待できる。

第8図 大型魚礁（見取図）



実容積	0.592 m ³
鉄筋量	16.5 kg
空中重量	1.48 t

（単位：m）

b プラ魚礁

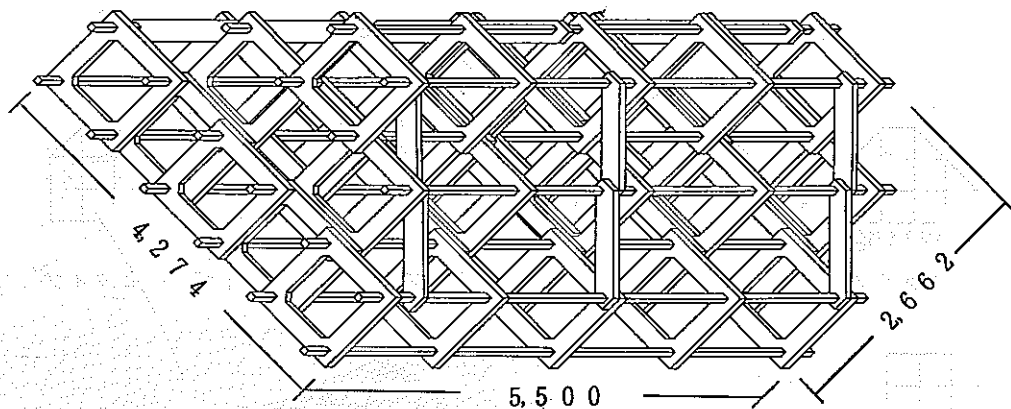
- イ 最近他県でかなり普及し、その効果が認められている。
- ロ 組立て式であるので魚礁の構造、配置が容易に構成できる。
- ハ 色が黒かっ色であるので環境的に適する（底質が砂質帯で明るく魚への刺激度が高くなる）
- ニ 材質が恒久的である。

第9図 プラ魚礁

50M³型

空中重量 3,590kg

水中重量 1,300kg



部分構造(組立式) 単位%

